

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時00分）

---

◇ 齊 藤 重 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位7番、齊藤重君。

（8番 齊藤 重君 登壇）

○8番（齊藤 重君） 通告書に基づき、一般質問を行います。所感をまず述べ、本題に入ります。

私たちの静岡県は雪による災害は関係がないなと思い込んでおりましたが、しかしながら、豪雪に見舞われ、町の孤立化、主要道路の交通マヒ等大渋滞で車内に4日間も閉じ込められ、命の危険に直面するという異常事態が発生いたしました。自然災害の脅威を改めて思い知らされたところでございます。

ご承知のように、近隣各県の被害状況は想像を絶するものがあります。本当に心からお見舞い申し上げます。

昨年は西伊豆町と小山町が豪雨による大きな災害に見舞われました。また、今回わが町を中心に2回目として計画の伊豆トレイルランニングを雪のために目先にきて中止となり、大変残念な結果となっております。尽力された関係各位に敬意を表しますとともに、ご苦労さまでございました。

昔から災害は忘れた頃にやってくると言われておりました。これとて常日頃気をつけろよの教訓ではありますが、近年は忘れる間もなく押し寄せてくる自然災害、大変な事態でございます。ただただ平穏を祈り、願うばかりでございます。

このようなことから、今回私が主眼とするところは、国、県が東日本大震災を教訓として、防災・減災事業の実施に向けたさまざまな施策が図られている中で、まず、1つとして、防災力の向上についてを議題といたしました。

①県の指針によれば、特例法に基づき、平成23年度から27年度に実施する防災・減災対策の財源を確保するため、平成26年度から10年間、個人住民税の均等割の引き上げが全国的に実施されるというが、具体的な内容はいかがか。

②今後、松崎町において、これに関連して実施される事業の計画はいかがですか。

大きく2つ目として、この中に、今の対策の中に人家や避難路などを保全する。土砂災害等が対象になっておりますが、税収として町税に加算された説明があると思いますが、これとて血税でございます。このように幾重にも国、県は対策を練っている中で、わが町の町道、星山線の現に・・・、今現在被害を受けている現状の対応は一言で言えば、議論だけで進展がない。論より証拠である。「早くしろよ」の意味から、あえてこの一つを議題といたしたところでございます。

2番目として、同じく、主題は一緒ですが、町道星山線崩落事故についてでございます。

①新年度予算審議となるが、復旧事業費の予算への対応は。

②相手方が受け入れない工法ではなくて、災害現場に適した別の工法を専門業者に依頼し、検討しているとのことでしたが、その後決定されたかどうか。

③崩落現場は町道と直結した場所であるが、全町に昔からの町道がたくさんあります。将来的に町道のあり方をどのように考えているか。

④町長2期目への挑戦であなたは有権者の大多数から支援を受けましたね。そして、当選した。町政を託されたものです。また、公約で力強く安心・安全なまちづくりの宣言もしました。町道星山線災害についても、公約に基づき早期解決が責務と考える。町長の権限で決断して、議会に諮る考えはないか。こういうことであります。

この本題の星山線については、私もまさかこのような状況になろうとはまったく考えていなかったものでございます。被害発生時の現場確認等ではやっぱり直接町道に関わることであるからということで、当局、区長、当事者がそれなりの方向性が出ると私は思い込んでおりました。しかし、一向に動きがないために、担当課に行き、内容確認もしたところ、穏やかな話し合いがならず、押し問答的なことから行くところまで行ってしまった。不幸な出来事だと大変残念に思っております。

2年と言うけれども、非常に長い。私は実感として、「みっともないな」の一言でございます。一議員としてここに来て、岩地だの岩科だの松崎だのの問題ではない。町全体を守ることについては、行政、議会の両輪は当たり前でございます。私はこのままだとまた年を越すのではないかとんでもないことだということで、年度内に目安をつけるべきだと思いつつ、私は改めてその気になり、何か打開策はないかと常に考えておりました。

この3月議会に間に合わせるためにもということから、いろいろと動きました。概念としては、今までの流れの中で、地質調査に760万円、その後の工事費が2000～3000万円かかる、それが当たり前と思いついておりましたが、しかし、現場の町道に沿って設置されてい

る土砂防護柵の存在に心が行き、間違いなくこれは公共事業であると確信し、その足で土木事務所、農林事務所等にデータの確認に行きました。農林事務所の治山課の台帳に昭和61年、地区名岩地と明記されておりました。古いために現在指摘されている場所かどうか確信はないけれどもということでしたが、地元業者がはっきりしていたために内容説明も聞いたり、なお、現状への対応についての参考話も聞いております。

この問題は基本的には災害対策の一本となりますが、これら内容については、一問一答の中で具体的に質疑応答を交わしたいと思いますので、壇上からの質問はこれで終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 斉藤重議員の一般質問にお答えします。

1. 防災力の向上について。

①「県の指針によれば、特例法に基づき、平成23年度から27年度に実施する防災・減災対策の財源を確保するため、平成26年度から10年間、個人住民税の均等割の引き上げが全国的に実施されるというが、具体的な内容は」についてでございます。

東日本大震災からまもなく3年が経過しようとしておりますが、この震災を教訓として、水門等の液状化対策、避難路などの保全対策や橋梁の耐震対策など様々な防災・減災対策が実施されております。これらのうち、地方公共団体において、平成23年度から27年度に緊急に実施される施策の財源に充当するため、特例法に基づき、平成26年度から35年度までの10年間に限り、個人の県民税と町民税の均等割の税率が、それぞれ500円、1人あたり年額で1,000円が引き上げられることになりました。

当町では、この臨時増税により10年間で1700万円程度が財源として見込まれております。ちなみに、26年度均等割対象者は3500名です。

②「今後、松崎町において、これに関連して実施される事業の計画は」についてであります。

特例による財源は先ほど申しましたとおり、当町における税額は10年間で、1700万円ほどと見込まれることから、用途を具体的に明確にすることなく、防災・減災対策全体の財源として考えております。

2. 町道星山線(岩地)崩落事故について。

①「新年度予算審議となるが、復旧事業費の予算への対応は」②「相手方が受け入れない工法ではなく、災害現場に適した別の工法を専門業者に依頼し、検討中(模索中)とのことだったが、決定したか」についてであります。

本復旧工事につきましては、現在交渉を続けている最中で、工事方法等について決定していないため、当初予算での計上はしておりません。

工事方法につきましては、作業箇所と住宅が非常に近く、また背後地も急峻であるため、技術者の専門的知見からテラセル工法を選択したところではありますが、なかなか同意が得られていない状況です。その他の工法についても検討していますが、経費の増加や、きょうあいな場所での困難性などがネックとなり、現在のところ代替案としての方法は決定しておりません。

③「崩落現場は町道と直結した場所であるが、全町に昔からの町道がたくさんある。将来的に町道のあり方をどのように考えているか」についてであります。

現在の町道は、630路線、約194kmとなっておりますが、このなかに昔からの山道なども多く含まれておりまして、町道としての基準を満たしていないものもありますので、将来的には整理していく必要があると考えております。

④「町長2期目への挑戦で有権者の大多数から支援を受け当選し、町政を託された。また、公約で力強く安心・安全のまちづくりの宣言もした。町道星山線災害についても、公約に基づき早期解決が責務と考える。町長の権限で決断し、議会に諮る考えは」についてであります。

本件につきましては、最終的な負担額を決めるにあたり、議会の議決を求めることとなりますので、当然その議案を作成する際には、様々な検討を経たうえで、最終的には私の判断で提出させていただくこととなります。

しっかりとした安全性を担保した工法を決め、出来るだけ早い時期に皆様にご審議いただけるよう進めているところでございます。

以上でございます。

○8番（斉藤 重君） 町長の方から回答も得たわけですが、防災力向上については、これは税込関係、県の方針ということで、この所管でも述べましたが、今は放っておいて先をとやかく言うあれはないじゃないかという意味合いから、早くやれよの全体的なこの岩地星山線の問題に絡めてのことでございますが、まず、その点はそれでいいと思います。そういったことに絡めて早くやってもらいたいという意味合いからの質問でございます。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。一問一答方式でよろしいですか。

○8番（斉藤 重君） 失礼しました。一問一答でお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○8番(斉藤 重君) そういうことで、この問題については、それとの絡みで、けども、大変な血税であるから、ちゃんと使わなければいけないなということを含めてそれは流します。

次に、星山線崩落事故についてですが、予算化については、解決に向けての対応として、まず予算措置が必要じゃないかという意味から、それはなぜかという、そのことによって前向きに、そのやる気を見せるという意味合いから私は求めたわけですが、その点はいかがですか。

○産業建設課長(山本秀樹君) 予算措置はしてありません。それは予算の根拠となる数字が決まっていないからということです。ただ、やる気自体はございますので、その辺もお伝えしておきます。

○8番(斉藤 重君) たぶんそういうことだと思いますけれども、そういう流れは決まれば補正でも何でもということでしょうが、ともかくその前向きな姿勢を求めての質問でございます。やっぱりそれに基づいてやっぱり次・・・、3月いっぱいでは新年度になるわけですが、やっぱり担当も替わるという意味合いから、それもけしかけながらやったらどうかということで、これは合わせての質問でございましたから、それはご承知ください。それは回答は結構です。

それから、課長と前にも、昨年12月議会のあといろいろあったなかで、コンクリート製または、ほかの工法にするとそれだけ工事費がかかるよと、そういう話でしたね。そこについての負担的なことについて心配していたことで、その足ですぐ1月9日ですか、土屋君の所へ行って、本題だけは聞いて、こういう話だけれどもと言ったら、その時は、それにパーセントが決まればそうしますと、それに従うという回答でしたが、昨日同僚議員の質問の中に、課長が説明して、身振り手振りではっきりいい説明をしてくれましたが、テラセル工法についてとか、そういう工事内容の勾配とかいろいろな説明中で、相手方とのその後の話し合いの中で、いくらかでもそういった歩み寄りがあったのかなと首をかしげて聞いていましたが、その点はいかがですか。

○産業建設課長(山本秀樹君) 一応テラセルの関係につきましては、当初提示をした時にテラセルの特徴とか、どうしてテラセルを選んだかということは説明は町の方からしてあると思います。ただ、その後やっぱり草が生えるとかの日常の管理の面とか、そういうところで折り合いがつかなくて、ずっと長引いていたということになります。その中で、経費の関係もコンクリートとか、ブロックとかでやるとそれなりに高くなりますので、そうすれば負担

も高くなるというようなお話も途中の経過の中でさせてはいただきました。

いずれにしても、我われとしては、できるだけ負担が多くならないような形で、なおかつ強度的には十分なものというようなことで、説明を続けているというような状況でございます。

○8番（斉藤 重君） 昨日そういったことの中で伺っていたわけですが、私としては、結局・・・、基本的には必要ない公金を使うべきじゃないと。そういう原点から、何か地元業者とも話し合ったり、もっと具体的な打開策がありはしないかなということから、いろいろ考えていたわけですが、単に2500万円、3000万円という工事費をとということで聞いておりましたが、そういったことをもっと安直にということの中で先ほど所感で言ったような防護柵の確認等にも歩いたわけでございますが、この土砂防止対策として農林事務所ですか、補助事業でやった仕事がね。その先ほど言った61年の岩地地区の仕事は結局当時の660万円で3分の2の補助の440万円でやりましたという事実があるわけです。台帳に載っていましたが、その形の中でこのテラセルとかということも含めた中で、これは、テラセル的には非常に材質もプラスチック製だとか、それは科学的な根拠があってやるだろうけれども、強度の面からは、この・・・、前課長もこの上に治山工事の大きい・・・、今でいうなら1000万円以上の仕事をしてある。それを信頼してというか、頼って、これは大丈夫という意味合いから私はテラセル工法でも大丈夫だという・・・、場所が狭いからだけじゃなかったのかなと思いますけれども、その点はいかがですか。課長。

○産業建設課長（山本秀樹君） 上の擁壁があります。それを、軟岩ですけれども、岩の上に一応乗っているという状況になっています。その前面の方の岩の方が崩れたというような形になりますけれども、このテラセルを選択した時に、要は、高さは約6メートル位の高さになるわけですが、その中で捨てコンの裏込めとか、その上にかかる重力に耐えられるものという擁壁工を選択した中で、ブロックであるとか、張コンクリートであるとか、テラセルとかが上がってきて、その中で一番水抜きが良くて、そして、経済性が高いというようなことでテラセルを選んだというようなことでございます。

○8番（斉藤 重君） その今のテラセルについてとか、工法については相手方、土屋氏との話し合いがまだ先ほどの説明ではなされていないと、検討中だということですので、それはあえて言いませんけれども、そういう中で、テラセルのこと、もう一つ確認したことは、あの場所で水の出が多いと、そのためにあの工法は狭いからじゃなくて、あれでやれば水が入っても必然的に自然的に流れ出すような考えからやった計画だということも・・・、それは参

考に聞いておいてください。あつたと、これは事実の話だそうです。それは確認しましたけれどね。そういうことの中で、私の思うのは、そういうことで、上にちゃんとそれだけの公共事業がなされて、土砂防止柵があると、そういうことであれば、極端に言って、町道と法面の・・・、土屋氏の裏側、その部分は10メートルそこそこだよ。そのところに2000万円、3000万円の金をかけて、そこを・・・、上が大丈夫だという意味合いからみれば、そんなに金をかける必要はないじゃないかと素人ながら思うわけですが、それで、スペースがないから、アンカーボルトを打つにはこうだとか、県道沿いを尾中が1年もかかってやったようなあんな対応をするような大げさなことを考える必要はないじゃないかと私は思っているんですが、その点はいかがですか。

○産業建設課長（山本秀樹君） まず、民地の、自分の家の裏山が崩れた場合は、大変申し訳ない話ですけれども、公共の方としてはそこをみないというような形になっています。ただ、今回の場合は、そのまま道路の部分もいっていますので、道路の法面を直すというようなことから、そこも一番下まで今回は手を入れさせてもらうということで施工するというまず大前提があります。

そうした中で、強度的に十分なということで、この工法を選んだということです。ただ、実際の工事費につきましては、今のところまだ概算ですので、実際に詳細の設計をしたわけではありませんので、概算でだいたいの金額を出してあるだけです。そこについては、金額的には変わってくるだろうかなと思います。安くなる場合もあるでしょうし、思わぬ手間がかかって高くなるというケースもあろうかと思っています。

いずれにしても、今のところは概算の経費というようなことで、やる場合はできるだけ強度は保った中で安い金額でというのは当然考えていきたいと思っています。

○8番（斉藤 重君） よくわかります。それで、そういった観点からいろいろと先ほど言うように地元の・・・、手っ取り早く言えば、一番そういったことに長けている地元の建設の方にも相談したり、どうしたらいいかということになるわけですよ。一応のその流れの中で、そういったことの必要性を訴えておきます。

それから、いま言った町道、将来的にいう・・・、旧町道の今後のあり方について先ほど町長から説明がありましたので、この点はあまり追求するものではありませんけれども、たまたまあの崩れた所は、ぼくらが中学、岩科学校に通う通学路でした。公道で。岩地は公道が2本しかなかったですね。でも、今はもう1人、2人が歩く、本当の花畑に行くくらいの、もう何十年何も使っていないという意味から将来的にはこの町道の見直しは・・・。町長、耳

ほじっててくださいよ。大きな形の改革になると思うんですよ。いまそのようなことをやっぴりこういう・・・、たまたま今の土屋氏の家のことだって、町道でなければ、まったく関係しようと思ってもできないでしょう。町は。関係ないところなんですよ。そういうことが、責任逃れじゃないですよ。そういう面からいって、将来どういう災害があるかわからない中で、現状のままで町道として管理するような状況を維持すると、いろいろの面で大きな問題になりますよ。そういう意味から、こういう見直しは早くすべきじゃないかということです。町長。その辺を一言。

○町長（齋藤文彦君） 先ほどお答えしたとおり、630路線、約194キロとなっておりますので、町道としての基準を満たしていないものもたくさんあるということで聞いていますので、これは本当に議員が言うとおり、これからのことを考えると、整理していく必要があると考えています。

○8番（斉藤 重君） これは、そういう大きな今後の改革としてという意味合いからこれも出しました。まったく必要ないというか、個人も使っていないような道がたくさん町道となっておりますので、これを機会にちょっと言葉を入れました。

それから、町長、この崩落事故というか、岩地の町道線についてですが、時が流れて2年経つね。まさかこんなふうにならないだろうと思っていたところ・・・、先ほど言ったとおりですが、平成24年の4月、災害発生後、交渉が壁に当たった時に町長が困惑の状況の中で、おやじ何とかならないか的なことから、私は個人的に土屋君の身内と話し合ったという経緯もあります。残念ながら、いい方向に結果が出なかったということで、今となっているわけですが、当時のことを議会でも言ったとか言わないとか、ありましたけれども、町長としてこういう大きな問題に陰でそういう何とかしようという努力をするのは当たり前だと思うんですよ。

私が言いたいのは、やっぴりやったことはやったということで、言わんとすることは、「こうでした。ああでした。」ということをはっきり言って、そういう中から議会の理解を得るというようなことにしてもらいたかったというのが私の思いでしたよ。

やっぴり地元でありながら、何をやっているんだというような、同僚議員からもああいいうお膝元でとかいろいろ言葉がありました。住民はそれしか信用できないわけですよ。 「何をやっているんだ」と言う住民はやっぴりあるわけです。あったわけですから。そういう意味合いからもちゃんと「こういう努力もしているよ」というようなことは、公言すべきことはした方がいいと思いますが、その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 岩地とか何とかじゃなくて、町の人が困っているわけですから、それをなるべく早く解決したいというのは、町長としてじゃなくて、誰もが思うことだと思うわけですが、なかなか最初のボタンの掛け違いというのがなかなか埋まらないところがありまして、ここまで来たわけですが、この前土屋さんとも会って話をしたわけですが、なるべく早く解決したいということは私も重々感じていまして、ただ、町がやることですから、いいかげんなことはできないわけで、ちゃんとした安全性を持った工事で、それで、議会の皆さんにもちゃんと承認していただけるような案を中で考えていますので、そのようなことを早く議会に提出するようにやっていきたいなと思うところでございます。

○8番（斉藤 重君） やっぱりははっきりすることははっきりして、自分の意思も表してという・・・、お互いにみんなそうなんですよね。陰でやっぱり努力することとして、理解も得たり、それについては、言うべきことは言って、議会でもそういう理解を得るといような、素直に率直にというようにすることも大事だと思いますよ。そういうようにお互いにやってみましょう。

それで、先ほど農林の関係で確認したことですが、これは660万円の440万円負担でわずかですが、43メートルという2軒のうちの中で、災害対策としてできていますね。防護柵がね。これは大きな仕事ですよ。当時やっぱり私も担当した時、実際仕事もつきましたけれども、急傾斜地域ということもみんな考えるわけですが、10軒以下じゃあまったく対象にならなかったですね。こういうこのいま現場になっているこの2件のところもそれに残念ながら願いが来ても当てはまらない。とてもそういうところまでいかないという中から、この農林の仕事になったと思うんですが、これとてやっぱりそれはその家を守るためにやったものだと思いますよ。そこで町道があつて・・・、町道があつたからやったわけじゃないですね。これは下の2軒の住宅を守るためにやった仕事ですよ。昔からガラガラ・・・、ぼくらが消防をやっている時も2回ほど、下は畑だったが2回ほど村さわぎやりました。そういったところだからこそそういったものが出たんだと思いますけれどね。それだけの大きな公共事業をやっている中で、先ほど言うように町道が崩れたって、あの法面が崩れたって、この防護壁はぼくはびくともしないと思いますよ。ただ、問題は上からの水とかということがありますので、それは対策してちゃんとしなければならない。

それから、当時私が現場にいた時に、土屋君は、ここは雨が降ると大水が出ると・・・、背戸を・・・、背戸というのは松崎ことばだからわかるでしょう。家の裏。「おらあ背戸は、ものすごいよ」ということで、彼は一生懸命説明していた。その水の出所を確認することは、

ぼくは大事じゃないかと思っているわけ。それには・・・、それを町長も言うんだけど、今放置されているというか、上の町道の表面、4尺のあれは取り除いたけれども、ほかはそのまま手つかずでしょう。土屋君の法面は。取っていないでしょう。そのままでしょう。

そういうことの中で、まずそこを取っちゃって、上が大丈夫という確信のもとに崩れた部分を取って、あと、どこから水が来るのか・・・。先ほど言うように土屋君がそれだけの水が出ると言っている以上は相当の水口があるわけですね。ぼくら素人から考えたって。どこの家も昔から山から出る水は1カ所石垣から出て、そこで洗い物をするところもありますよね。そういった筋道の水口を確認するためには、町長、いまあるところを取っちゃってきれいにして、水がどこから出るかという確認。

もう一つ言うておくことは、43メートルの上の防護壁の上からはその水は出ていないという確認がされているわけですね。そういうところを、早くものを対処するにはそういうことから取りかかった方が・・・、あれこれ計算的な専門とか何とか言わないで、やるべきことを先にやって、確認しながら後のことを考えるという意味合いはいかがですか。町長。

○町長（齋藤文彦君） 私はすぐ決断できないわけですがけれども、それは工事の専門家の人に聞いてやってみなければいかんと思うわけですがけれども、今ここですぐというようなことはなかなか難しいと思います。

○8番（斉藤重君） 町長、専門的なものはね。そういう放置してああやっておくこと自体が、前に同僚議員も言っていましたけれども、家を押すとか、それをまず、そういうことを・・・、あとの段取りとか、計算とか、いろいろの設計とかということはやるやらないはいずれにしても、あとにして、先に取るものを取っちゃって、水の出口を確認して、次の段取りを取らなければ、結局、絵の何とかと言うじゃないですか。卓上のね。

ぼくはそれを先にやれとけしかけているんですよ。どうですか。もう一度。

○町長（齋藤文彦君） やれと言われてもなかなか自分だけの決断ではなかなか難しいところがあるわけですがけれども、本当にそういう・・・、あそこでそういう工事ができるのかというのはちょっと中で話してみたいなと思っていますけれど。

○8番（斉藤重君） それは、言わんとするところはわかりますけれども、ちゃんとした仕事をするには、それなりの計画を持って、図を引いたりというのはあるけれども、まずそれへと、災害になっているところを・・・、保険を取るわけじゃあるまいし、崩れているところを取るというのは、ほかに害をあれするところはないでしょう。

そういうことをして確認することの方がお互いに、土屋家に対しても「これはこうだ」

「こういう仕事でいいじゃないか」工法がいろいろ出てくるわけでしょう。課長、その点はいかがですか。

○産業建設課長（山本秀樹君） そのこの現場の工事をやるにあたりまして、我われの方で引き継いでいるのは、土を取る際には、結局重機が入らないので、上から少しずつ取っていくと、取ったところをまたとりあえず仮吹付けをやりながら取っていくというようなことで、サツというふうには取れない。取った場合はまた崩落の危険もあるということで、上から徐々に少しずつ吹付けをしながら取らなければならないというようなこともあって、一体的な工事の方がいいということから、早く工法を決めて、早くかかりたいのはありますけれども、工法が決まっていないので、そのままにしてあるというようなことで、今の状態になるというようなことでございます。

○8番（斉藤 重君） 先ほど、当初からいうように、この議会にのっけるためにいろいろ資料集めとか、具体的に現実的にどういうふうにしたらいいかということ、ない頭の中でいろいろ自分なりに考えて、今日のこの質問に立っているわけですがけれども、やっぱりもっと現実的にものを考えて、やるべきことは早くやるべきですよ。町長。あまり計算上でああだこうだとやっているから、こういうことになるんじゃないかと思うけれども、良い悪いの問題じゃないですよ。

ここで、私が求めるのは、やっぱり今の水の問題を一番重視して、先ほど言う、上は県道だったか・・・、格上げされて県道になったんだったか。

○産業建設課長（山本秀樹君） 農道です。

○8番（斉藤 重君） そういう上の土がたくさん積んであって、あれも袋が破けちゃったようになっているけれどね。農道にやってある。下に来ないようにということで、20メートルか30メートルやってあるでしょう。あれも見てあるけれど、袋を見てぼくは言わなかったけれどね。袋も破けてきています。今から雨がくるから、そういったことにも気を使って、いずれにしても、そういう防御しながら、あとの対策を考えながら、下の災害されているところ、被害を受けているところのあとの仕事をどうしたらいいかというのを早く解決して・・・、その前に今の土を取って、水口の確認は早くした方がいいと思いますが、いま一度聞いても同じ回答ですか。どうですか。

○産業建設課長（山本秀樹君） 実際土を取る時には一緒にというふうには思っていますけれども、それが工事費に土を取る分が金がかかるとか、その辺の関係でいろいろと土屋さんの方とも話をしながら、できるだけ経費が軽まるようにとか、そういうところの話は、実際に

土を取る、先にとるというような話をしたこともあります。その辺もいま交渉経過中ということですから、まだはっきりはしていません。

いずれにしても、その辺の話とか、それから、工法等が早く決まれば、どんどん実施できるような方向に行くと思います。いずれにしても、いまその詰めをしている最中です。

○町長（齋藤文彦君） 齊藤重議員の本当に熱い気持ちが伝わってくるわけですがけれども、本当に安全性を担保した工法を早く決めて、皆さんにご審議いただけるような案を提案したいなど今、一生懸命やっているところでございますので、そのところをご理解いただきたいなと思います。

○8番（齊藤 重君） 最後になりますけれども、町長、今きしくも言いましたけれども、やっぱり長い月日がかかって、ここまで来たわけですね。最初からずっと言う、私の一番言いたかったことは言ってきましたけれども、国も県もという中で、今からの災害に対する、どうしましょう、ああしましょうという問題の前に、現在被害を受けているとか、現在悪い状態にあるというものを取り除いたり直さないで、先のことをああこう言ったってどうしようもないというのがぼくの考えですよ。みんながそうだと思いますよ。そうなってもらわなければ困るけれども。

ですから、いろいろな災害問題で、ああです、こうです、避難塔、これは別の問題があるけれども、まず、現状で住民が1人でも2人でもそういう災害にあっているという中では、それをまず善処するという・・・、責務でしょう。これは。みんなの。ということから、こうして言っているわけですよ。

岩地だから、岩科だから、松崎だとか、中川だから、そんなものは関係ないですよ。我われは松崎を守らなければならない意味からね。

みんなでござって、なったことをいかに早く対処するか、結論を出すかということになると思いますよ。そういう意味で、誰が良いとか、悪いとかじゃなくて。

町長、最後にね。やっぱり住民に安心を与えるためにすぐにできることから取りかかってもらいたい。そのところを一言、回答を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 私も、議員と同じ気持ちでやっているわけですから、ちゃんとなるだけ早く解決するように、本当に努力してやっていきたいと思っています。

○8番（齊藤 重君） 言うべきことは言って、聞くことも聞きました。あとは、町長、当局の前向きな形で住民のために、町のためにということ求めて、私の質問を終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で齊藤重君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

(午前 10時44分)

---